

平成17（2005）年3月14日 文教市民常任委員会

1 学び舎ネットについて

2 学校教育自己診断について

#### No.217 灰垣委員

大きく5点ほどになりますけれども、答弁を速やかにいただければ、時間も短縮になるかなと思いますが。

まず、予算内容の25ページですか、成人教育ということで、学び舎ネット、まずこの事業の目的について。

順番に言うていきますので。次に、学校教育自己診断、これは私は一昨年に質問させていただきまして、質問したままじゃ申しわけないので、きちっと検証したいなと思って。

12年から、他市に先駆けられてこれを導入されまして、15年度には、全小、中学校に実施、そしてさらに昨年、質問させてもらったときに、教育委員会で実施モデルをつくられて、今、またさらに推進していくと、こういうご答弁だったと思うんですけれども。

そこでまず、15年度と16年度の実施の状況の違いをお示しいただきたいと思います。

それから、次に、実態の分析ですね。これ、学校ごとにはどのようにされているのか。また、教育委員会としては、それをどのようにされているのか。今後のことは生かしていくのかというか、それをお願いします。さらに、保護者の地域の住民の方に関しては、どのように公表されているのか、これが学校教育自己診断。

続きまして、確かな学力の定着ということで、市長が施政方針で重点施策と、教育の冒頭にこの確かな学力の定着を掲げられたわけですけれども、先ほどもお話がありましたOECD調査での学力低下ということが指摘されてます。

本市では、学力向上施策の一つとして実施されているのが少人数授業ですけれども、一定の成果があったというご報告もありました。

10日の日だったと思うんですが、箕面市で少人数学級の予算案が委員会で否決されました。この否決理由が、講師の配置対象がなぜ1年生なのか。また、各学校が抱える教育課題に取り組むための教員配置の方がいいのではないかと。あと1つほど、何か否決理由があったそうなんですけれども、きょうはこの2点、取り上げていきますが。

本市の少人数授業、当然、この少人数学級とはちょっと違うと思うんですけれども、私は、箕面市のこの否決の理由というのは、比較的 Understanding しているというふうに思っています。というのは、本市が行っている少人数授業というの、今度2年生に拡大されますけれども、やはり目的が多少、私の思う少人数授業と違うのかなと。

そこで、今、第7次公立義務教育諸学校教職員定数改善計画というのが載せてあって、学力向上フロンティアスクールとか、こういうのがあると思うんですが、ここで、学習の習熟度に応じた少人数指導を行う、それで学力の向上を図ると、こういうふうになっているんですが、この少人数授業と習熟度別授

業、これ高槻市において、どのように、関連と申しますか、なされているか教えていただければと思います。

実際に、15年度に実施されました基本学力実態ですか、それによりますと、全国平均からすると――これは教育委員会の認識ですよ、小学校の<PAGE="75">国語、これは目標値に到達しているものの、十分であるとは言えないというふうな、こういう回答があったり、小学校の算数に関しては、全国的に到達度が若干下回っていると。特に応用の到達度が低いと、こういう結果が出ているんですね。

やはり、こういうことを考えれば、少人数授業というのも、もっと、拡大も含めて習熟度等組み合わせていくというか、そういうことを考えていっていただきたいと思って、この関連ですね。これをお願いいたします。

そして、4点目には、学校選択制、明確な答弁が代表質問ではいただけなかったんですが、これは、きょうはもう質問しようとは思いませんが、ご答弁いただいた中に、市長のご答弁の中に、先ほど出てきました地域教育協議会を中心に云々と、各学校が教育改革を推進し、成果を上げているところでございまして、このようになっているんですけれども、学校選択制のところをここを取り上げられるとは思わなかったんですけれども、とりあえず、この成果を上げているということに対して、どのような成果なのか教えてください。

最後ですけれども、学校・園2学期制ですね。これは、100年続いてきたというこの3学期制を、あえてここで2学期制に変えると。これは、私はもう教育委員会の皆さんを大いに評価したいというか、やはり大変なことをやろうと、この思いを私は買いたいと思っております。

私の好きな言葉に、困難という木の根はにがい、しかし、その実は極めて甘いという、こういった言葉が私、好きな言葉なんですけれども。やはり、大変な変革、改革だからこそ、やり切っていただきたいなと、このように思っております。

どうか、ここで市長の決意は、代表質問でいただいた。学校教育部長も、先ほどからいただいている。教育長に、ちょっとご答弁をいただきたいなと思っております。

この5点、よろしくお願いします。

#### **No.218 川端社会教育課長**

お尋ねの学び舎ネットの設置目的であります。家庭教育の意義や有用性を踏まえながら、学び舎ネット生みずからが、主体的に学び、互いに育ち合う機会を充実し、生涯学習を実践することにより、家庭及び地域の教育力を向上させるとともに、一人一人の自己実現を図り、より豊かな家庭、社会づくりと、子どもの健全な育成を進めることと考えております。

以上でございます。

#### **No.219 金築学校教育部参事**

まず、学校教育自己診断についての、平成15年から16年かけての前進点の確認でございます。今年度については特に実施モデルについて、すべて実施をいたしました。このことから、現在、3学期

末に各学校から報告を受けております。報告の内容につきましては、もちろん各学校が教育自己診断のデータの分析結果を保護者初め学校評議員、地域住民等に公表しておりますけれども、その内容について、教育委員会事務局の方もともに分析しております。

今後のあり方も含めまして、成果といたしましては、学校の経営、運営に関して、学校教育自己診断をうまく活用していくというふうな学校が生まれつつあるというふうな点で、この学校教育自己診断の目的が少しずつ浸透していくというふうに認識しております。

それから、少人数の問題でございます。少人数加配授業と少人数授業の違いでございますけれども、少人数加配というふうに呼んでおりますのは、国の第7次公立義務教育諸学校教職員定数改善計画でございます。少人数授業については、今年度から市域で展開しております小学校低学年を対象にしました、小学校の生活をスムーズにスタートさせるような学習指導、生活指導を行う、そのような目的を持った授業でございます。

少人数加配における習熟度別指導と、少人数授業との関連でございます。習熟度別指導に関しましては、学校側が児童生徒の学習状況を把握しまして、単元や課題に応じて習熟度別のコースを設定して行う授業形態でございます。準備のため、テストを実施し、その結果を考慮したり、担任、少人数授業担当が双方協議しながら、児童生徒がみずからの意思で選択する方法をとっている学校<PAGE="76">が多いのでございますけれども、改めて自分に合った、そういう学習内容を設定し、自分の力にしていこうという、そういうような授業でございます。

少人数授業に関しましては、先ほど、市の事業として、内容を言いましたように、小1プログラム、小学校1年生の段階で席に座って授業を受けられないとか、集団生活になじめないとか、そういうことに関しまして、効果的な対応策として、これを打ち出しているわけでございます。

地域教育協議会についての成果でございます。地域教育協議会の事業開始から5年を経過いたしました。運営が次第に学校中心から地域のネットワークへの広がりを見せている点では、前進というふうに考えております。

まだまだ子どもの参画は十分に図られていないというような課題が見受けられますけれども、この点については、今後の課題としていきたいと思っております。

地域教育協議会についての成果の見方でございますけれども、かなり、各中学校区の取り組みには差がございます。地域の諸団体と学校の関係が、非常に近くて、情報の共有や、意思の疎通が十分である、そういう校区もあれば、まだまだ課題を抱えているというところがありますけれども、最近の地域教育協議会の目覚ましい、評価される点については、中学校区におきまして、幼、小、中、高も一部ありますけれども、中まで、授業改革を通して、地域教育協議会がバックアップをしていくという、いよいよ、地域教育協議会の本当の姿というのを体現しつつある校区が出ているということについても、前進点として認識しております。

2学期制の問題に関しましては、改めて午前のご質問に答えているように、2学期制のメリットというものをも十分に生かしながら、調査研究モデル地域でしっかり研究してまいりたいというふうに考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

## No.220 立石教育長

学校2学期制でございますけれども、これは、高槻の一連の教育改革の中で進めていきたいというぐあいに考えております。

先ほどもスーパーイングリッシュのクラスの話があったわけでございますけれども、これも、AETをただ各学校に配置したということだけがその効果ではないわけございまして、英語の時間は英語で授業をすると、これが目的でございます。これを打ち出しましたときに、かなり英語の先生から反論がありました。それでは、受験に対応できないということで、これは反対があったわけでございます。随分、英語の先生とも話し合いをしながら、そしてその中で、スーパーイングリッシュクラス、これをやろうということやり始めたわけでございます。

英語の先生方は、非常に苦しい中で、また現場は忙しい中で、これに取り組んで、今、成果を上げつつあると思っております。

せんだつての学力調査におきましても、英語については、まず、今のところは心配ないと。今後も、使える英語ということで、これは教育改革の中で、そういった子どもたちということでまいりたいと思っております。

したがって、学校の2学期制につきましても、学校とともに進めてまいりたいと。そして、17年度の調査研究において、課題を整理しまして、保護者、市民にしっかりと説明しまして、皆様のご支援をいただきながら実施してまいりたいと思っております。

そして、結果として、高槻の子どもたちが豊かな心を持ち、国際的に通用する学力を身につけるように、全力で取り組んでまいりたいと思っております。

## No.221 灰垣委員

学び舎ネットですけれども、実態を拝見させてもらって、16年度、スタッフの方が29ネットというんですか、設置されているわけですが、それぞれスタッフがいらっしゃるわけですが、16年度の講座、子育て講座の実施の状況を見させてもらったら、例えば、少人数のスタッフで多くの参加者を募っているとか、逆の場合もあるんです。例えば、374人の参加人数があった、こういうところで59人のスタッフの方でこれを運営されているんですね。これは極端な<PAGE="77">んですけれども、4人の方しか参加がなかったと、こういった子育て講座もありまして、この学び舎ネットというのは、地域の草の根の、お母さん方を中心に、近所のそういった年齢層は問わないということですが、本当に努力をして、講師を呼んだり、講座を行ったり、いろんな催しをしたりして、地域の、先ほどご答弁にあったとおり、教育力みたいなものを上げていくという。これは、非常に私は、できればこれは成功していただきたいという、こういった思いで、今回、質問させてもらっているわけですが、

こういったばらつきがあるということで、私も知っている委員長の話を知ると、やはり結集に乗ってこないというか、そういったことがたくさんあるようです。

だから、教育委員会として、多くの方が、160名とかそういう結集をされているところもあるわけですから、そういったところをしっかりと知ってらっしゃるのかなと。そういったところを分析して、苦慮されているところに教えていってらっしゃるのかなということを、再度聞きたいと思っております。

それから、学校教育自己診断ですけれども、それなりの成果があったというふうにお聞きしました。自己診断は、それぞれ4者で、要するに校長先生、学校の先生、保護者、それから子どもさん、4者で評価をして、その結果をもって分析して、次年度に生かしていくという、こういった制度だと思うんですが、これも地域のお母さん方に聞くと、アンケートとるだけで、それだけで終わっているという、そういった認識を私はお聞きしたことがありましたもので、改めてこれ、取り上げさせてもらったんです。

府中市なんかでは外部――これは東京の方、進んでますけれども、外部の方が評価をされると。全く第三者の方が、学校経営に携わるということ、こういった事実があるわけですね。府中市は大学の講師が1人、それから民間企業の経営者が2人、退職した校長先生が1人、現役の校長先生が2人と、6人でこういった評価を、学校に行き、教職員と実際に話し合っ、学校の実態を見て改善していくと。その診断書というのをつくりまして、年度末にその診断書を提出すると。そういったことで、外部の評価というのは、やはり必要じゃないかなと思ってます。

そこで、学校評議員なんですが、お聞きすると、271名の方がいらっしゃる。その中で70名の方は、大学の学識者であるというふうにもお聞きしましたけれども、この評議員の方、当然、住民の方がなっ、ていただいているんで、無理を強いるようなことはできないと思うんですが、もてあましてらっしゃる方が、結構いらっしゃるんですね。もっと何とか、何かしたいんだけど――要するにこれ、校長先生の諮問機関ですから。だから、この大学の経験者がいらっしゃる、70人もいらっしゃる学校というのは、むしろ私は校長先生が学校の改革をしようと思ってやってらっしゃるのかなと、そういった憶測をするわけですけれども。

この評議員の方が、この学校教育自己診断に、評価に携わるということも、これから考えていいんじゃないかなという、考えていただくべきじゃないかなということ、ちょっとお聞きしたいと思います。

それから、学力の方ですけれども、先ほど言いましたように、低下している学力、学科等もあるわけですから、この少人数授業も含めて、習熟度の部分ですね、まだそれほど本市においては、習熟度別授業という形では進めてらっしゃらないというふうにも思っているのかなと思うんですが、これもやっぱり、これから検討していただきたいなというふうにも思っていますので、ご見解をお聞かせください。

それから、地域教育協議会、先ほどから出てますが、これも任意で集まっ、ていただいている住民の方々ですから、強制をするということではないんでしょうけれども、たまたま私の知っている限りでは、予算が30万ほどつくわけですが、やる行事は、例えばスポーツ大会であるとか、これはこれで悪くはないんでしょうけれども、実際に予<PAGE="78">算が使われるのが、例えばチラシ代だったりするとか、非常に高級な用紙を使って、色鮮やかな広報誌をつくってらっしゃる。

これはもうこれで否定することではないんでしょうけれども、先ほどおっしゃったような、本来の目的とはちょっと違うかなというふうなことを感じております。

この辺も、ちょっとまた、今後の考え方をお聞かせいただきたいと思います。

2学期制なんですけれども、今、ご答弁いただきました。決意として聞かせていただいたわけですが、まことに申しわけないですが、ちょっと屋上屋を架するような質問になりますが、2年という試行期間です。2年で、課題がひよっとしたら解決できないと、こういった事態がもし起こるようなことであつたら、むしろ延長してでも、本当に実施できる、2学期制にしてよかったという、先ほど、100年先のお

話もされてきたけれども、そういった実態ができるように、しっかりと調査研究をしていただきたい。

これはまあ、要望としておきます。

以上です。

#### **No.222 川端社会教育課長**

学び舎ネットでございます。基本的には、任意団体でありますので、市といたしましても、その自主性、主体性を尊重しながら、その活動をより一層、活発化されるよう支援しているところでございます。

支援といたしましては、講師謝礼や、消耗品の支援、他地域での活動情報の検討、講師の紹介、学習プログラムの組み立て方の相談等でございます。

また、全学び舎ネット生の交流の場である学び舎ネット大会、各学び舎ネットのリーダーの養成を目的といたしました運営委員研修会、また次年度の学び舎ネットの開設を、より円滑に進めるための準備委員会、研修会を開催しているところでございます。

いずれにいたしましても、今後、学び舎ネットの組織、相談窓口となり、各学び舎ネットの事業に、より多くの市民の方々の参加が得られるように支援してまいりたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

#### **No.223 金築学校教育部参事**

学校教育自己診断についての、委員のご指摘でございます。

学校評議員制度も含めまして、このような評価活動、自己評価、外部評価のサイクルづくり、そのことによって、効果的な学校経営を生み出す、運営をしていくという、そういう流れは確実に定着をしているというふうに考えております。

学校評議員制度を採用しましてから3年を経過いたします。今年度末で、任期満了を迎える評議員がおられるわけでございます。これを機会に、これまでの運用状況につきまして、教育委員会事務局としまして、しっかり評価した上で、来年度以降、学校経営に資する制度として、一層、効果的な運用を図るよう指導してまいりたいと存じております。よろしくお願ひしたいと思ひます。

地域教育協議会におきましても、先ほど、成果を申し上げましたように、まだまだ、全体的なレベルというか、学校中心の運営もまだまだ見られます。イベントを中心の、そういう取り組みでございますけれども、しかし、他地域に比べまして、8,000名の方が、その行事に参加していただくというのは、これは地域の行事にとっては、地域を再生するという意味で、大変大きな力というふうに思ひます。

それをイベント中心というふうには申し上げることはできません。そういう点で、地域教育協議会がさらに学校の運営に、効果的なかかわりはどのような形がいいのかということも、今後の課題として深めてまいりたいと思ひます。

学力についてでございます。習熟度別の授業については、これは全国的に、まだまだ始まったばかりの取り組みでございます。現在、習熟度別指導の効果的な教科、学年、学習領域、単元等、また児童生徒の内面、これは習熟度別指導を受け入れる児童生徒の気持ちでございます。このようなものを総

合的に考慮し、実践研究をしている段階でございます。

先日、府で高槻の習熟度別の指導の実践発表を<PAGE="79">行いました。高い評価を得ました。こういう確実な、基礎的な研究を、丁寧に展開していきながら、子どもたちの学力を向上させてまいり所存でございます。よろしくご理解ください。

#### **No.224 灰垣委員**

学び舎ネットは、全校、小学校に設置したいというご希望ということですので、いつまでにそれを実現するのだというぐらいの目標を立てて、そのうち、全校に配置できたらと、そういうことじゃなくて、いつまでにやるんだというぐらいの思いを持って、取り組んでいただきたいと、要望させてもらっておきます。

学校教育自己診断ということですが、いろんなことを考えながら、せっかくアンケートをとっているわけですから、それをしっかり自己診断をすることが目的ではありませんので、それを生かして、学校改革に使うということですので、そういったことを、視点を誤らずに、その自己診断の運営をしていただきたいというふうに思います。それも要望です。

最後ですが、確かな学力ということで、習熟度別も、これから検討していただいて、いいことはやはり導入もしていただくべきだと思いますので、それも最後に要望とさせていただきます。私の質問を終わらせていただきます。